

～リウマチセンターだより～



関節エコーについて

関節リウマチの治療は、生物学的製剤や JAK 阻害薬の登場により劇的に進歩しました。そのため、より早期に診断して治療を開始する意味が高くなったと言えます。一方、生物学的製剤や JAK 阻害薬は高額であり感染症のリスクもあるため、炎症の有無を正確に把握し、不必要に強い治療を避けることも重要になりました。

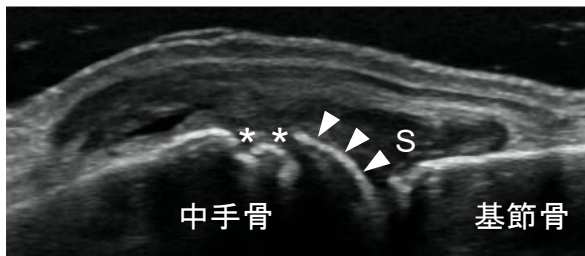
関節エコーを用いることにより、関節リウマチでみられる滑膜や腱鞘滑膜の炎症を正確に評価することができます(図)。また、関節エコーにより、単純X線では見えない小さな骨びらんを検出することができます(図)。

そのため、関節の腫れがはっきりしない患者さんでは、関節エコーを用いることにより、より早期に正確な関節リウマチの診断をすることができます。また、既に関節リウマチの診断のついでに患者さんにおいても、炎症の有無がはっきりしない場合は、関節エコーを用いることにより、過小評価や過大評価を避けることができ、より適切な治療の強さを決めることができます。

獨協医科大学リウマチ・膠原病内科の外来では各ブースに関節エコー機器を準備し、必要な場合に直ぐに検査ができる体制を整えています。関節エコーは、関節穿刺の補助、またコミュニケーションツールとしても有用であり、リウマチ患者さんの診療アウトカム・満足度の向上のために役立っています。

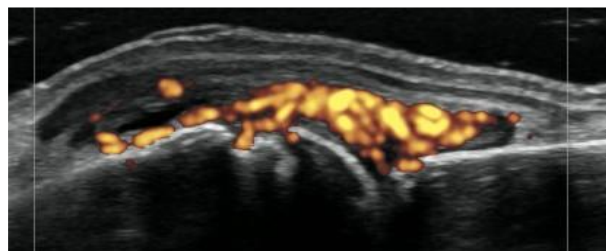
リウマチセンター センター長 池田 啓

グレースケール



関節リウマチ患者さんの右中指中手手根(MCP3)関節。グレースケール画像では高度の滑膜肥厚(S)を認める。中手骨頭の軟骨は消失し(矢頭)、骨びらん(*)を認める。

パワードプラ



パワードプラモード画像では滑膜肥厚の部位に高度の異常血流シグナルを認める。

第10回 リウマチ教室 開催のお知らせ

【日時】 令和6年6月1日(土) 14:00~16:00

【会場】 関漢記念ホール

【参加費】 無料(参加申し込みは不要です)

関節リウマチの理解を深め、より良い療養を行っていただくために
リウマチ教室を開催いたします。どなたでも参加できます。

